咳受容体感受性に関する研究: 咳誘発試験による研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/15078

学位授与番号	医博乙第1192号
学位授与年月日	平成4年11月18日
氏　　名	坂 本 さゆり
学位論文題目	咳受容体感受性に関する研究　－咳誘発試験による研究－
論文審査委員	主 査　教 授　松 田　保
	副 査　教 授　竹 田 亮 祐
	教 授　小 林 健 一

内容の要旨および審査の結果の要旨

咳嗽は一般臨床や呼吸器専門外来において最も一般的な呼吸器症状であるが，その発生機序は解明されていない。慢性持続性乾性咳嗽を呈する疾患として，アンギオテンシン変換酵素阻害剤によって誘発される咳嗽，咳喘息およびアトピー咳嗽が知られており，いずれも男性より女性に多い傾向がある。一方，喘鳴・呼吸困難とともに咳嗽を主要症状とする気管支喘息は，慢性気道炎症と気道過敏性亢進を基本病態とする。β_2交感神経刺激薬は喘息症状の軽減に有効であるが，喘息以外の疾患の咳嗽にも有効であるかは不明である。そこで，(1)咳受容体感受性の性差，(2)気道過敏性と咳受容体感受性の関係，(3)咳受容体感受性に及ぼす気道平滑筋トーヌスの影響を明らかにするために，咳誘発試験を用いて本研究を実施した。すなわち，気道の咳受容体感受性の指標として，酒石酸及びカプサイシン咳閾値を測定した。

その結果，(1)酒石酸咳閾値は，非アトピー非喫煙健常者において，男性に比し女性の方が有意に低値を示した。(2)酒石酸咳閾値は，慢性気管支炎患者では健常者に比し有意に低値を示したが，気管支喘息患者と健常者に差はなかった。また，健常者，気管支喘息患者および慢性気管支炎患者において，気道過敏性と相関しなかった。(3)酒石酸咳閾値およびカプサイシン咳閾値は，健常者において，メサコリン誘発気道収縮によって影響を受けなかった。カプサイシン咳閾値は，β_2交感神経刺激薬である塩酸プロカテロール吸入による気道拡張によって，気管支喘息および慢性気管支炎患者では有意に上昇したが，健常者においては変化しなかった。

以上の成績は，以下のことを示唆する；(1)酒石酸咳閾値の性差は，ある種の咳嗽が男性よりも女性に多いという臨床的事実を一部説明しうる。(2)気道の咳受容体は，気道過敏性とは独立して咳嗽を誘発する。(3)気道平滑筋トーヌスの変化は，気道の咳受容体感受性に影響しない。つまり，β_2交感神経刺激薬吸入は咳受容体感受性に対して直接的効果をもたないが，気管支喘息や慢性気管支炎では，炎症性化学伝達物質の遊離を抑制することによって間接的に咳受容体の感受性を改善する可能性がある。

以上，本研究は，呼吸器病学の進歩に貢献するもので，学位論文に値するものと考えられる。